岐阜新聞のサンデーコラムに掲載されました

岐阜新聞　2014年（平成26年）6月8日 日曜日

サンデーコラム

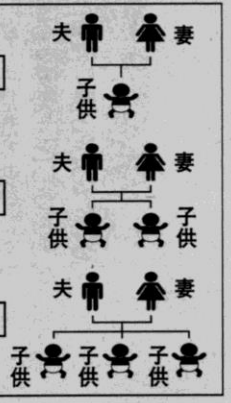
古井憲司・クリニックママ院長

未婚女性へのメッセージ

将来の不妊に備えを

以前、私はこのコラムで卵子は35歳ぐらいから老化が始まると述べたことがある。現在の日本の少子化について、その最大の理由は、未婚化、「若者が結婚しなくなった」、または、晩婚化、「女性の社会進出により、若いうちは仕事中心で20代、30代を駆け抜け、気が付けば40歳になっていた」等が挙げられる。

先日、「16道府県、出生率で目標値」という記事が、ある新聞に掲載されていた。この記事によると47都道府県のうち、宮城、兵庫など約3分の1の16道府県が、独自の少子化対策として合計特殊出生率の数値目標を設定していることが共同通信社の調べで分かった。例えば、宮城県は現在、合計特殊出生率が1・30であるが、これを2017年までに1・40にするという目標を設定している。ところで読者の皆様は合計特殊出生率とは何か、ご存知だろうか？ご存知ない方のために下図に示す。



合計特殊出生率

合計特殊出生率が2・07を下回ると人口減少が起こる。つまり、宮城県のアンケート結果をみると第目標値1・40では人口は増加するどころか目標値を達成したとしても人口は減少し続けるのである。今後は国を挙げて合計特殊出生率を2・07以上に維持することが国策として最も重要な課題である。

ところで、出生率低下の原因についてのあるアンケート結果をみると第1位が「未婚者の増加」、第2位が「育児仕事の両立困難」、第3位が「晩婚化の影響」であった。このアンケート結果の第1位、第3位については、妊孕（にんよう）性の温存が重要になってくる。私は、現在、自分のクリニックにて大勢の不妊患者の治療にあたっているのだが、当クリックにおいても40代の不妊患者が増加してきている。しかしながら、過去のコラムでも述べたように、高齢になればなるほど卵子の数は減少し質も低下する。それによって起こるのが妊娠率の低下である。

ここでひとつ提案したいことがある。それは、卵子の老化と卵子の数は血液検査で簡単に調べられるということである。子供のいない女性は35歳になったら一度、この血液検査を受けると自分の妊娠力が自覚できてよいと思う。そして私が、現在、考えているのが未婚女性のための卵子バンクである。若いうちに自分の卵子（未受精卵）を凍結保存しておけば、40歳以上で結婚しても凍結保存しておいた若い時の自分の卵子で十分妊娠できる可能性がある。

今後、女性の社会進出によって、ますます、女性の晩婚化が進むと思う。自分の卵子をできれば35歳より前に凍結保存しておくことが、将来、不妊症で悩まないための備えになる時代が必ず来ると思う。

ふるい・けんじ　1960年生まれ　日本産科婦人科学会専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医、日本IVF学会理事、日本生殖心理カウンセリング学会理事、日本レーザーリプロダクション学会理事、日本生殖工学会理事、岐阜県産婦人科医会理事、岐阜県特定不妊治療費助成事業指定医療機関審査委員ほか、多数の役職を務める。